

2024 年 11 月 19 日

2024 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人ひだまりの丘
ホーム名 自立援助ホーム いと
施設長 氏名 宮地 拓朗

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成事業の名称

入居者の自立促進事業

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2023 年 4 月に開所し、8 人定員の女子向けの自立援助ホーム。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

日々の生活の中での掃除や自炊を通して生きていく力を、また、様々なタスクが必要となる旅行の事前の予約や計画、旅行時での各種体験を通じて、今まで経験できなかった体験を提供、サポートすることにより、入居者児童の自立を促進していきます。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

【入居者用掃除機】

自分の部屋(居住空間)を週に 1 度は掃除をする習慣をつける。そのためにハードルが低く扱いやすいコードレス掃除機を利用し、最終的には、共有空間も掃除をする気持ちを育てていきます。

【入居者用オープンレンジ】

・入居者に人気で購入することが多いメニュー(焼き菓子、パン、グラタンなど)を入居者自身で実際に作ってみることで、自分の食べるものは作ることができる自信、食育につなげていきたいです。

【入居者用冷蔵庫】

- ・食材を自分で管理、調理していく練習をしていきます。
- ・自分の食べるものを、自分で考え作っていく体験を重ねます。
- ・他の入居者と冷蔵庫を共有することで、他者への気遣いや境界線を伝えていきます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

自室を掃除することが習慣化され、また好きなものを作って食べることににより、セルフネグレスト気味だったところを、生活は自分でコントロールできるという体験をすることにより、自立への練習となっています。また、自分たちの冷蔵庫ができたことにより自発的に管理をするようになり、自分のものを食べられるなどのトラブルも減りました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

日々の生活を自分で立てていくという課題のため、引き続き衣食住について興味を持ってもらい、自発的に習慣化できるように、面倒、つらいことなく、自分のためになり、楽しいことだと繰り返し体験してもらえるよう調理や掃除についての施策を講じていきたいです。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

